

# 「電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会（仮称）」

## 設立会および第1回協議会

平成24年8月10日（金）

10:00～11:30

伊勢市役所 4-5会議室

### 1. 開会

（伊勢市長 挨拶）

- ・協議会参画の皆様のご協力に感謝申し上げます。
- ・現在、三重大学の朴先生からの支援をいただきながら、地球温暖化防止対策に取り組んでいます。東日本大震災における東京電力の福島第一原発事故の影響もあり、エネルギーの地産地消の必要性を認識しています。地球温暖化防止計画も現在策定中であり、行政・市民により実行していきたいと考えています。
- ・来年は、1300年前から続いている20年に一度の伊勢神宮の式年遷宮が控えています。現在の観光客、約800万人のうち、7割を占める560万人は車で訪れており、車一台につき2.5人程度とすると、200～250万台が観光で伊勢市を訪れています。
- ・伊勢神宮は、古代から環境を重視した生活を日本の民族のルーツとして継承しています。こうした中で、本市においては、EV等を活用した観光都市づくりをいかに早く実現するかが重要です。

（三重県環境生活部長 挨拶）

- ・協議会参画の皆様のご協力に感謝申し上げます。
- ・昨年の紀伊半島での大水害、今年5月の茨城県のつくば市・関東地方を襲った竜巻、東北地方・北海道の記録的な豪雨、先月の九州北部の記録的豪雨など、異常気象に伴う大きな被害が発生しています。また、7月に熱中症で搬送された方は、全国で21,000人、県内でも約500人となっています。度重なる異常気象や健康被害など、地球温暖化の進行に伴う様々な影響が身の回りで目に見える形で起きているのではないかと感じられるようなことがあります。
- ・県では、地球温暖化の原因である温室効果ガスの削減に向け、今年3月に三重県の地球温暖化対策実行計画を策定、幅広い観点から取組を進めようとしています。あわせて条例の制定に向けた議論も進めており、より実効性のある取組につなげていきます。
- ・これまでの地球温暖化対策は、省エネが中心だったが、今後はこれに加え、より多くの再生可能エネルギーを生み出し地産地消で運用するという新しいライフスタイルを創造する考え方も重要となっています。まちづくり、地域づくりの中で幅広い取組が求められているのではないかと考えています。
- ・三重県鈴木知事は、これからのキーワードは「協創」としています。その観点から先を見据えた取組として、低炭素社会創造モデル事業を実施することとしました。
- ・活発なご議論のもと行動計画を策定し、具体的な行動につなげて下さい。県もともに汗をかき、取組を進めていきます。

## 2. 協議会参画者による自己紹介

(松下氏 伊勢市)

- ・伊勢市には古くから多くの観光客が訪れています。来年には、伊勢神宮の式年遷宮があり、おそらく 1,000 万人を超える観光客が訪れます。伊勢市は、観光のまちであるため、「観光地」「観光客」をキーワードに考えていきたい。

(頓部氏 伊勢県民センター)

- ・管内の地域づくりに取り組んでおり、この協議会に参加しながら地域を盛り上げていきたい。

(前田氏 皇學館大学)

(本澤氏の代理出席)

- ・地元の大学として、三重県のために支援をしていきたい。

(加藤氏 名古屋大学)

- ・専門は、交通部門における二酸化炭素排出削減の評価、削減に向けた政策提言である。
- ・三重県では、環境審議会の部会の委員をやっており、条例制定に向けた検討のお手伝いをしている。交通政策関連では、松阪市・大紀町・鳥羽市といった伊勢市の周辺市町の委員を務めている。これまでの経験を活かし、具体的な政策検討を進めていきたい。
- ・伊勢市出身である助教の柴原とともに参加させていただく。

(朴氏 三重大学)

- ・大学では、環境、国際交流、男女共同参画を担当しており、専門は環境地理学で、大気汚染と地球温暖化を主に研究している。
- ・伊勢市では、環境審議会の会長を務めており、環境基本計画策定にかかわった。現在は地球温暖化防止実行計画を策定している。
- ・人口 13 万に対し、年間 800 万人、来年は 1000 万人の観光客が訪れると見込まれている。人口の数十倍、100 倍の観光客が訪れる世界にも例のない地域であるため、伊勢市ならではのモデルを検討していきたい。

(藤井氏 イオンリテール株式会社イオン伊勢店)

- ・Customer Satisfaction (お客様満足度)、導入店 (テナント)、販売促進の担当をしており、今回は CS 担当として参加させていただいている。
- ・伊勢神宮には、毎年多くの観光客が訪れると聞いており、EV を活用するのにふさわしいのではないかと考えている。

(五十子氏 株式会社伊勢安土桃山文化村)

- ・来年は、式年遷宮があるが当施設も 20 周年を迎えるため、観光に力を入れて地域により身近な施設にしていきたい。地域との関わりを深め、新しい取組に参加していきたい。
- ・齊藤とともに参加し、伊勢市、三重県を盛り上げていきたい。

(大谷氏 近畿日本ツーリスト株式会社)

- ・19年程度、地域振興として観光の力を活用したまちづくり、交流事業に取り組んでいる。
- ・今夏は、KNTグループのPRツールの一つであるフリーペーパー「KNTaste」で、「大人の夏休み」というテーマで伊勢志摩地区のPRをしている。
- ・旅行会社が果たす役割は非常に大きいと認識しているため、積極的に取り組みたい。

(松井氏 近畿日本鉄道株式会社)

- ・EVやより小型のモビリティと鉄道をどのように連携させていくかが新たな課題となっている。特に、伊勢市のような観光地において、地域社会の交通システムとして何ができるか現在検討しており、この協議会で勉強させていただきたい。

(畝氏 タイムズ24株式会社)

- ・中木の代理として出席させていただいた。
- ・当社は、伊勢市・三重県では馴染みが薄いかもしれないが、時間貸駐車場（コインパーク）を全国1万箇所以上運営しており、全国一の箇所数となっている。
- ・最近では、環境対策の新規事業として、EVやカーシェアリングの事業を、全国4000台規模で展開している。「人とクルマとまちと」というキャッチフレーズを掲げており、そうした観点から、堺市とEVカーシェアリング事業、池田市とまちぐるみのカーシェアリング事業を実施している。蓄積してきたノウハウをこの協議会で活かしていきたい。

(藤原氏 東海日産自動車株式会社)

- ・日産自動車の国内営業部門の出先機関として、地域に密着した車の販売や、東海地区の10の販売会社、300の店舗を側面支援している。
- ・約1年半前より「LEAF」というEVを販売しており、国内累計販売台数は17,000台となっている。海外では、アメリカ、イギリス、オランダでも販売している。全需規模でみると、まだ規模が小さく今後も拡販に取り組んでいく。
- ・購入されたお客様からは、非常に動力性能が良い、静かである、環境にやさしい等、様々な反響があり、少しずつ普及していることを実感している。一方で、電気スタンドなどの充電設備の整備が不十分で全国的なネットワーク網となっておらず、利便性の課題がある。現在は、災害時や節電の際の家庭の電気として活用するなど、動く蓄電池としての取組も進めている。
- ・EVの新しい付加価値について検討するために、参画依頼をいただいたと考えている。まちの活性化のためにEVのこういった活用ができるか、連携して取り組んでいきたい。

(河合氏 トヨタ自動車株式会社)

- ・「協創」というテーマに強く共感している。共に創るという意味では、理想論ばかりでなく、無理のない範囲で取組を進めていくことが成功のポイントと思っている。プリウスのPHVが販売されており、普通の自動車の代わりに乗ることのできる商品となっている。
- ・子会社であるトヨタメディアサービスでは、充電器を販売しており、プリウスPHVだけで

なく、日産、三菱、どんな車でも充電することができる。WiFi を内蔵しており、観光や災害等の情報を発信できる点が特徴である。

- ・今年7月から始まった「能登充電ドライブ」というプロジェクトでは、里山里海、世界農業遺産など、能登の豊富な観光資源に充電スタンドを設置し、能登空港でのPHVのレンタカーをセットにして展開している。PHVで観光スポットを通ると、観光情報を受信することができ立ち寄ると充電もできる。低炭素で環境にやさしくドライブができる。そうした情報も参考として提供していきたい。

(岩崎氏 株式会社トヨタレンタリース三重)

- ・トヨタ自動車のフランチャイズとしてレンタカーとリースを扱っており、三重県を担当している。
- ・夏休みは、伊勢志摩の観光客が増えるため、車両や職員の集中的な配置をしている。車の利用が地球温暖化に与える影響は懸念される。PHVの導入はまだだが、将来的には販売されるであろうEV車をレンタカーに採用していきたい。

(妹尾氏 日本電気株式会社三重支店)

(中村氏の代理出席)

- ・環境は注力している分野であり、EVの関係では、充電スタンドを円滑に運用できるよう制御するサービス、観光客に付加価値を与えるサービスに取り組んでいる。今回も積極的に取り組みたい。

(前田氏 おはらい町会議)

- ・伊勢おはらい町会議は、伊勢神宮内宮の鳥居の前から五十鈴川沿いに沿って参道沿いのまち並みをつくる会で、会員は約62名、店舗数約100店舗となっている。
- ・宇治地区の一部となっており、2,800~3,000人の住民が居住している。ここに、年間1,000万人の観光客が訪れる中で、住みやすいまちをつくっていかうと、居住者と観光客を対象としたまちづくりを30年程度進めている。
- ・景観のハード面から取り組み、その後はソフト面での事業、平成21年からは防災対策に取り組んでいる。今回は環境をテーマとした取組として、車の両輪ができあがり、一つのまちとして、みんなが意識しながら、できていけばいいなと思っている。
- ・100年計画でのまちづくりを考えており、今回の事業をきっかけに、次世代につなげるまちづくりを進めていきたい。

(西村氏 社団法人伊勢市観光協会)

- ・来年は、人口13万人の都市に1,000万人超の観光客が訪れる。そこで発生する300万台の扱い、渋滞回避が大きな課題となっている。
- ・観光客に優しいまちづくりをすることで、伊勢市民にとっても住みやすいまちになる。ここから、モデル地域として発信していきたい。情報発信等で共に取り組んでいきたい。

(増田委員 伊勢商工会議所)

(菊川氏の代理出席)

- ・商工会議所では、伊勢市における5つの課題、伊勢神宮の式年遷宮、まちづくり、産業、生活、環境の5つの課題に向けて、約30のプロジェクトを組んで取り組んでおり、今後も増えてくると思われる。
- ・菊川副会頭は、産業・環境の担当副会長であるため、環境だけでなく産業との連携も検討できるのではないかと考えている。

(市川氏 社団法人伊勢地区医師会)

(寺田氏の代理出席)

- ・伊勢地区医師会の担当地区は、伊勢・度会地区で、会員数は約230名である。
- ・災害・救急医療の面から安心できる環境づくりについて学び、取り組んでいきたい。

(奥田氏 伊勢旅館組合)

- ・旅館組合は合併後も、二見地区・伊勢地区に分かれて活動している。
- ・伊勢地区の旅館組合会員は、ホテル・旅館をあわせて約30軒である。大半の旅館は家族経営で小さな組織だが、可能な範囲で協力させていただく。

(景山氏 社団法人三重県旅客自動車協会)

- ・タクシー事業を展開している。平成21年10月1日に成立した「特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の適正化及び活性化に関する特別措置法」により、タクシーも、鉄道・バスと同じように公共交通機関の一部であることが認定された。
- ・タクシーは、都会に集中しており過疎地には少ないが、そうしたことの背景には、タクシー会社が運転手に支払わなければならない最低賃金がある。
- ・「特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の適正化及び活性化に関する特別措置法」により、三重県では、津・松阪・北勢の交通圏が特定地域に指定されており、新規参入や増車ができないが、伊勢地域は特別地域に指定されていない。この不況下でも、年間800万人の観光客が訪れる。
- ・実際には、自動車で訪れる観光客が多いが、鉄道・バスを利用してタクシーに乗車する観光客もいることから、協会としてできることがあれば協力したい。

(星野氏 公益社団法人三重県バス協会)

- ・バスとEVは関連が薄い印象があるが、低炭素社会を創造する方法の一つに、公共交通の利用促進がある。例えば、マイカーからバスに転換すると、CO<sub>2</sub>が約3分の1になる。公共交通機関の利用促進と地域の活性化の観点から、協力させていただきたい。

(山本氏 外宮参道発展会)

- ・外宮参道は、伊勢市駅から外宮までの約 400m の参道で、会員数は約 60 名である。この 1 年間に、駅前ホテルや新店舗ができる等、商業的なエリアとして約 1.5 倍になった。外宮では、せんぐう館が今年 4 月に開館し、来館者がすでに 10 万人を超えている。また、駅前広場の修景工事が来年の 3 月までに行われるということで、現在注目を集めている。
- ・現在、住民や観光客の安心・安全を確保するための災害マニュアルづくりも始まっており、新店舗などとの連携を図ることが課題となっている。
- ・伊勢市駅は、伊勢志摩地区全体のハブ機能を持った地域でもあることから、多くの観光客が訪れる参道から、三重県・伊勢市のエネルギーに対する考え方を発信していきたい。

(西村氏 日本ユニシス株式会社)

- ・電気自動車と PHV の外出先での充電インフラのシステムを、北は青森県から西は熊本県まで提供している。
- ・伊勢市は歴史のあるまちだが、常に新しいものを取り入れながら、その文化と歴史を守っているという印象がある。今回は、電気自動車という新しいものを取り入れて、伊勢の文化や歴史を活かした新しいモデルづくりに協力していきたい。

(小木氏 本田技研工業株式会社)

- ・国内マーケティング、次世代環境自動車の普及を担当している。
- ・三重県には鈴鹿製作所があり、生産活動にご理解ご協力をいただいている。
- ・今年 8 月末に、「FIT」をベースとした電気自動車を発売する。生産台数が限られているため、自治体・法人についてはリース販売のみでのご提供となるが、電気自動車の普及に取り組んでいきたい。縁の深い地域であるため、協力していきたい。

(橋本氏 三菱自動車工業株式会社)

- ・軽商用車タイプ・軽乗用車タイプなどの電気自動車を製造販売している。軽乗用車タイプは 3 年前に発売したが、当時は環境対応が主だったのが、震災後は、エネルギーの地産地消や非常時電源としての活用に期待が高まっている。「MiEV power BOX」のような、電気自動車の電気を取り出して非常時に使うような商品も、自動車メーカーが提供する時代になってきている。
- ・まずは、電気自動車の周知が重要なため、電気自動車に乗車してみたい、触ってみたいというご要望があれば、県内の販売会社にある試乗車等でご協力させていただく。

(後藤氏 株式会社 JTB 中部)

- ・愛知・岐阜・三重・静岡・北陸 3 県・長野を対象とした中部本社にて、地域活性化や観光まちづくりを担当している。
- ・旅行会社は交流人口に対し最も身近な存在であり、その拡大に向け大きな役割を担う者として、観光・まちづくり・地域活性化のお手伝いをしている。

- ・観光という概念も、従来の物見遊山の観光から地域に光をあてた観光へと、傾向が変わってきている。単純な旅行商品の販売による誘客促進だけでなく、低炭素社会の創造に向けた地域の仕組みづくりを支援し、「住んで良し、訪れて良し」の伊勢のまちを盛り上げていきたい。

(黒岩氏 株式会社 JT B)

- ・地域活性化の観点から、EV・PHV を活用した環境観光まちづくりの取組を進めている。日本ユニシスとの連携で、地域にネットワーク化された低速充電器を配置し誘客するほか、観光地における EV・PHV の二次交通としての利用促進も進めている。また、観光情報誌を活用した EV 観光のプロモーションや充電器自体の設置も行っている。
- ・今年度の国の地球温暖対策化事業として、鎌倉における電気バイクのバッテリーのシェアリング事業の実証実験にも携わっている。

### 3. 協議会の設立

#### (1) 協議会規約の承認 (資料 1)

(事務局による資料説明)

(拍手により承認)

#### (2) 会長、副会長の選任

(選任、承認)

会長 三重大学副学長 朴 恵淑  
副会長 伊勢商工会議所副会頭 菊川 厚

(朴会長 挨拶)

- ・これまで環境分野に関わってきたこともあり、伊勢市に対する関心は高い。
- ・この協議会には、オール伊勢、オール三重、オールジャパンの方々が集まっている。電気自動車等を活用して、どのようなまちづくりをしていくのか検討していくことは、伊勢市を世界一の低炭素社会に導く大きなきっかけになると感じている。
- ・短期間での計画づくりとなるため、知見や事業経験、活動経験をお持ちの協議会の皆様の積極的な関与とご協力をお願いしたい。

### 4. 第 1 回協議会

#### (1) 協議会名称の検討 (資料 1)

(事務局による資料説明)

(朴会長)

- ・規約はすでに承認されているが、長いというご指摘があった協議会の名称について、そのままとする、短い愛称をつける、名前を変更する等という方法もある。ご意見をいただきたい。

(意見なし)

(朴会長)

- ・名称の変更なしで、ご承認いただけるということだけでいいか。それでは、これより「(仮称)」をとらせていただく。

(異議なし)

## (2) WG設置、内容・スケジュール・進行ルール等の検討(資料2)(参考資料1)

(事務局による資料説明)

ア)のWGを最初に行い、順次、他のワーキングを開催していきたい。WGメンバーに参考資料2にて出欠の確認を行いたい。また、決まった日程等については、協議会メンバーへも周知いたしたい。開催日程については、皆様の予定等もあるため臨機応変に対応させて頂きたい。

(朴会長)

- ・5つのWGの名称については、各WGでより分かりやすい名称がよいということであれば委ねたい。テーマとしては、この5つでいいか。

(異議なし)

(朴会長)

- ・スケジュールがタイトになっている。9月にWGアを開催し、10月から2月まで5つのWGが同時進行となる。その間に11月、1月に協議会を開催し、各WGで議論された内容を代表者よりご報告いただく。3月の協議会で計画を確定し実行に移していく。
- ・WGと協議会の位置づけについて確認する。協議会規約の第8条第4項により、最終的な決定は、協議会にて行う。各WGでは自由に議論して方向性を検討し、協議会で承認して確定となる。これについて、ご意見をいただきたい。

(河合委員)

- ・検討内容は各WGに任せるということだったが、その検討内容が公開されることはあるか。要は、協議会規約に、「電気自動車等」を「EV等とする」とするとあるが、我々がEVとともに扱っているPHVも同等に位置づけていただきたい。PHVも含めた包括的な表現として「EV等」で表現を統一していただけないだろうか。

(事務局)

- ・資料2に記載している「EV」を「EV等」に表現を統一させていただくことでいいか。

(承諾)

(朴会長)

- ・5つのWGとスケジュールが決まった。メンバー構成について、事務局から説明をお願いしたい。



(事務局による資料説明)

協議会及びWGの名簿について、皆様で共有することに問題はないか。無ければ、皆様へ連絡先を含めた名簿を送付させて頂く。(承認)

(朴会長)

- ・メンバー構成について、ご意見はあるか。WGによって人数の多少はあるが、皆様のご希望にそってグループ分けさせていただいた。

## 5. その他

### (1) 各WG第1回会合の日程調整(参考資料2)等

(事務局より資料説明)

(朴会長)

- ・日程調整をお願いしたい。

## 6. 閉会

(朴会長)

- ・伊勢市は人口規模13万人だが、伊勢神宮の式年遷宮もあり、これから相当の観光客が訪れることが予想される。人口の100倍にもなるような観光客が訪れる中で、いかに共生し、何度も訪れたいと思っていただけるようなまちにしていくか、そのためには様々な側面での取り組みが必要である。
- ・この協議会で、交通手段の観点から、環境に配慮し経済と共生しながら、あらゆる移動手段をベストミックスして、伊勢モデルとして世界に誇れるものをつくっていききたい。

(事務局より懇親会に関する連絡)

以上